３月	豊川　愛護モニター報告	モニター区間	豊川：左右岸 6.2km～17.8km 管轄出張所：豊川流域治水出張所
実施日		実施区間	吉田大橋～賀茂橋

豊川放水路分流堰のすぐ上流の河道の変化が気になっていた。

５年前の河川愛護モニターのレポートにある写真（https://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/information/aigo/houkoku/t-1912shinshiro1.pdf）を見ればよくわかるが、中洲の中に少なくとも２本の河道があった。中洲自体も規模が小さく、せいぜい草が生い茂る程度だった。ところが、その後、土砂が堆積してそれらの河道はなくなってしまった。中洲には木が生い茂り、ちょっとした森のようになっている。さらに、中洲の左岸側（下流から見ると中洲の右側）の河道が細くなり、上流側がふさがれてしまい、２年続けて人工的に開削しなければならなくなってしまった。

そもそもこの地点は人工的に豊川放水路を造ったこともあって、河道の変化が起こりやすいのだろう。人間は左岸側（下流から見ると中洲の右側）まで幅広く水を通そうとしているが、豊川は右岸側（下流から見ると中洲の左側）だけを流れようとしている。両者の意志は完全に衝突している。このまま行けば、中洲と左岸が地続きになっていくだろうと思っていた。

しかし、人間側は反撃に出た。中洲自体や中洲の樹木に流木が引っかかることによって流れが妨害され、洪水を招くからだ。中洲を除去する工事が昨年 12 月から始まった。 そして、この３月、中洲を除去し、左岸の砂を一部除去する工事が終了した。川幅が確保され、増水時にもスムーズに水が流れそうだ。

では、これで人間の勝ちかというと、残念ながら事はそう単純には進まないことが予想される。豊川は右岸側を流れようとし、左岸側に土砂を堆積しようとする意志を捨てたわけではないからだ。豊川では、大雨が一度降るだけで、河道が変化したり、大量の土砂が堆積したりすることは珍しくない。

河川の管理はほんとうに大変な仕事だと思う。圧倒的な力を持つ自然に対し、人間がいくら頑張っても、負け幅を少なくするか、せいぜい引き分けに持ち込むしかない。それでも、人間は諦めるわけには行かない。洪水を防がなければ、生活、さらには命を守ることができないからだ。

そんな、果てしない川と人間の攻防を垣間見たような気がする。

(写真は次ページに)

工事前
右岸分流堰上流側から

工事前
右岸分流堰下流側から

工事の説明
非常に分かりやすい

草木を除去した後
土砂がかなり堆積していたことがわかる

工事終了後
右岸分立堰上流から
同じ場所とは思えない

工事終了後
土砂を除去したことで、左岸の岸もかなり後退している